

ネパール大地震 フェミニストダリット協会による救援活動報告

2015年4月25日に起きたマグニチュード7.8の大地震は、広範囲にわたる壊滅的な被害をもたらしました。5月4日現在、死者は7,400人、負傷者は14,000人、食料支援が必要な被災者は300万人にのぼります。交通手段や通信手段も深刻な打撃を受けており、未だ被害の実態は把握できていません。そんな中、自らもテントに避難をしていたフェミニストダリット協会 (FEDO) 代表のドゥルガ・ソブ (IMADR理事) およびスタッフより、緊急支援の様子を伝える第一報が届きましたので報告します (5月4日付)。なお、IMADRは4月30日に緊急支援金をFEDOに送金し、緊急カンパの呼びかけを行なっています (詳細はP20をご覧ください)。

政府の救援が遅れているため、多くの被災者は地元の役場に行き、テントや食料・水などを提供するように訴えています。FEDOは、4月29日より被害実態の調査と救援活動を始めました。

最初に、カトマンドゥから約15キロ離れたゴダワリ村に行きました。ここでは36世帯が家を失いましたが、役所はその内、近場にある4世帯にしか救援物資を配りませんでした。人びとの訴えを聞いて、私たちはすぐに役所と掛け合い、残る32世帯にもテント、食料、衣類を配るよう申し出ました。

その後、カトマンドゥのゴンガブ・バス駅から7キロ離れた所にあるサングラ村とプトゥン村に行きました。サングラ村では7人が死亡、45世帯のうち41世帯が家を失いました。プトゥン村では22世帯のうち12世帯が家を失いました。私たちが行くまで、どこからも救援物資は届いておらず、村人たちはテントもないまま戸外で避難生活をしています。「すべて失くした」。壊れた家の瓦礫の山を見ながら、サングラ村のラメッシュ・マン・シン・クンワルさん (55歳) は言いました。さっそく持って行ったテ

ント、マット、食料、薬を渡しました。見捨てられたのではないかと、いう絶望に似た気持ちの中、私たちの訪問は希望の灯をともしました。役所や外の

人たちにこの状況を伝えてください」「お礼の言葉が見つかりません」。ラメッシュさんはそう述べました。

カンチ・スナルさん (80歳) はサングラ村でも人里離れた所に住んでいます。家は全壊し、同じダリットの3家族と共に戸外に避難をしています。「地震以

来、何も食べていません。孫たちはお腹がすいたと言って泣きます。どうすればよいのか、一体どうなっているのか…」、スナルさんは涙を流しながら訴えました。「贅沢は言いません、雨露をしのげるテントと食べ物さえあれば助かります。役所からは誰も来ません。私たちは貧しいダリットです。だから何ももらえないのかもしれませんが、お願いします、どうぞ助けてください」。私たちは被災家族に、テント、マット、食料、薬を提供しました。「ありがとうございます！ご恩は一生忘れません」と人びとから感謝の言葉をいただきました。

その他、地震で45歳の息子を失ったマイラ・プトゥワルさん (67歳) にマットと薬を渡し、家族を失った3世帯にマット、テント、薬を渡しました。

プトゥン村に住むツウリ・アクハミさん (100歳) は長年喘息を患っています。大きな余震が来るとい噂に、家族の身をあんじています。FEDOの救援活動に感謝していただきました。 (翻訳：小森恵)



救援物資を詰めるFEDOスタッフ (右から2人目がドゥルガ・ソブ代表)



サングラ村で被災者の話を聞くFEDOスタッフ

プロジェクト報告

インド ダリットの青少年の教育とダリット女性のスキルトレーニング 2014年度 活動報告の概要

IMADRのパートナー団体である農村教育開発協会 (SRED、タミルナドゥ州) は、連合の「愛のカンパ」の支援を受けて、5年間のプロジェクトを実施している。その4年目になる2014年度の活動報告の概要を紹介する。プロジェクト報告の詳細は、IMADRのウェブサイト参照。

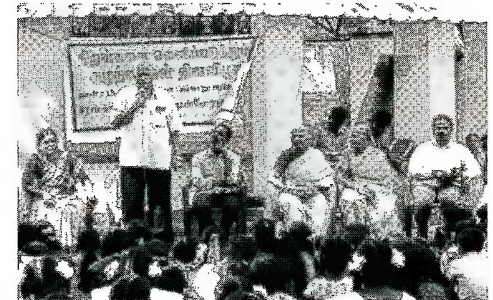
1. ダリットの青少年の教育

1) アンベドカル通信教育コース—公正、平等、非差別の実現に向けて(対象 130人)
ダリットの青年を対象にした、社会正義、平等および非差別に関するアンベドカルの教えと思想を学ぶ1年間の通信教育。コース修了者はマドゥレイのダリット研究所から認定証を受けた。コース期間中、SREDはカラルにあるSREDセンターの図書コーナーに学習支援用の書物や資料を整え、受講者が自由に閲覧できるようにした。定員は130人とし、高校教育修了者を対象とした。



2) 中途退学防止のための就学児童学習支援 (対象 約800人)

学校の授業内容をより理解して学習意欲を高めるために、ダリットの子どもたちに毎日夕方学習支援のクラスを開いた。今期は20のダリットの村で、村の公共施設や子どもデイケアセンターを利用してクラスを開いた。これを行なっていくことで、村全体に学校教育への関心と支持が広がった。



2. ダリット女性の自立のためのスキルトレーニング (対象 約100人)

1) 縫製、刺繍、石鹸作り、キャンドル作り、漬物作り

ダーマプリ地区のダリット女性たちを対象にスキルトレーニングを実施した。ダーマプリは2012年11月に他カーストからの大規模な襲撃を受け、286の家屋が壊され、女性たちは職を失い無職のままだった。そのため、家で使う道具や台所道具を簡易に作る方法や、縫製、刺繍、石鹸作り、キャンドル作り、漬物作りなど、仕事を得たり自営するための様々なスキルトレーニングを実施した。



2) エコ農業

ダリット女性および先住民族女性、障害のある女性を対象に、集団で行うエコ農業および持続可能な農業実践についてトレーニングを提供した。また、問題が発生した時にどのように事態を分析し解決するかなどについてもトレーニングした。さらに、インド州立銀行の銀行員を招いて、政府が提供している貸付スキームについて講義を行なった。こうした生活能力を身につけるトレーニングの結果、アンナナガル、ダーマプリ地区のダリット女性30人が学んだことを活かして小規模の経済活動を始めた。女性たちの今後の計画は作っている製品の質を向上させて、市場へのつながりをもつことである。 (翻訳：小森恵)

